

## 館長だより第18号(2020/7)

暑中お見舞い申し上げます。東京都では連日50名を超える新型コロナウイルス感染者が出たというニュースで、第二次の流行が懸念されている今日この頃ですが、皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

風土記の丘では、6月下旬から講座などの開催、さらに7月以降は一部体験学習などの催事について、それぞれについて感染防止の観点から、人数の制限はありますが、徐々にかつての姿に戻していきたいと考えておりますので、よろしくご支援、ご協力お願いいたします。

さて今回は、7月18日(土)から8月30日(日)までの予定で開催される令和2年度夏期企画展「骨の考古学—「骨」から探る、わかやまの古代—」の紹介をします。

遺跡の発掘調査では、一般的に石器や土器、瓦などの地中に残りやすい材質のものが多く出土します。一方、金属製や木製の道具、あるいは骨は地中で劣化して残りにくいため、出土例の報告は、多くありません。しかし、貝塚や古墳等地下水の豊富な地層に恵まれた遺跡など特殊な条件の下では、人骨や動物の骨、貝殻や魚骨などが残されていることがあります。

例えば、縄文時代の貝塚、鳴神貝塚(国指定史跡・和歌山市)では、出土した魚や獣の骨、さらに貝類の分析検討から縄文人が干潟や岩場でハマグリやカキを採集し、内湾や河口付近の漁撈ではアユ、アジ、スズキなどの魚類を、付近の丘陵山地ではイノシシやシカを捕らえていた姿が復元されます。さらに、墓に埋葬されていた人骨からは性別、年齢、身長などが明らかになるばかりでなく、頭蓋骨からはどのような顔つきであったのかという復顔すら行えるようになっていきます。今回、この復顔で得られた鳴神出土縄文人に御対面いただけます。

古墳時代では大規模な塩づくりを行っていた遺跡として知られる西庄遺跡(和歌山市)で出土した遺物から、外洋性の回遊魚のカツオなどの大型魚を狙った漁撈の紹介を行います。そこではシカの角を加工してカツオ漁用の釣り針や疑似餌、さらに刀剣類の部品を制作していたことが明らかとなっています。

また県内の各古墳からは人骨の出土例があり、それらから埋葬された状況が明らかになり、そこにおさめられた生活道具などの副葬品を通じて、他界観や埋葬儀礼を垣間見ることがもできます。

本企画展では、このように和歌山県内の縄文時代から古墳時代の遺跡から出土した人骨、動物の骨、魚骨、貝類などに注目した「骨」について、古代の人々の生活や埋葬の歴史を探ってみたいと考えています。

### 【主たる展示品】

鳴神貝塚・鳴神IV遺跡(和歌山市)：人骨、滑石製小玉、獣骨、魚骨、貝類、骨角器、縄文土器、縄文人復顔模型(和歌山市蔵)、人骨、硬玉製小玉、縄文土器(県教育委員会蔵)  
禰宜貝塚(和歌山市)：獣骨、貝類、イノシシ牙製ナイフ、縄文土器、石匙、削器(和歌山市蔵)

高山寺貝塚（田辺市）：獣骨、貝類、縄文土器（高山寺蔵、県立博物館保管）

地の島遺跡（有田市）：人骨（有田市教育委員会蔵、大阪市立大学保管）

大古Ⅱ遺跡（白浜町）：骨片、弥生土器、石器（県教育委員会蔵）

西庄遺跡（和歌山市）：人骨、獣骨、魚骨、製塩土器、鹿骨製釣り針、鉄製釣り針、須恵器、土師器ほか（県教育委員会蔵）ほか

**【関連行事】**

展示講座；令和2年8月23日（日）、13:30～15:00

**【開館時間・休館日】**

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

**【入館料】**

一般 190 円（20 名以上団体割引 150 円）

大学生 90 円（20 名以上団体割引 70 円）

高校生以下、65 歳以上、障害者手帳などをお持ちの方及び県内在住の留学生は無料（証明書の提示が必要）